【生薬名】牡丹皮　*MOUTAN　CORTEX*

【起源植物】ボタン　*Paeonia　suffuruticosa*

【 科　名 】ﾎﾞﾀﾝ科*Paeoniaceae*

【 別　名 】牡丹一名鹿韮一名鼠姑（神農本草経）、花王、富貴草

【薬用部分】根皮

【主 成 分】ﾓﾉﾃﾙﾍﾟﾝ配糖体(ﾍﾟｵﾆﾌﾛﾘﾝ、ｵｷｼﾍﾟｵﾆﾌﾛﾘﾝ)、ﾌｪﾉｰﾙ類(ﾍﾟｵﾉｼﾄﾞ)、ﾀﾝﾆﾝ

【 薬　性 】気味は辛苦微寒、帰経はに属す

【 効　能 】●清熱涼血・活血化瘀

●鎮静、鎮痛、駆瘀血薬として頭痛、腹痛、婦人科疾患、月経不順、月経困難など、停滞する血行障害のあるものに応用する

●瘀血による婦人科疾患、月経困難症、月経不順に１日５～10ｇを水400㎖で煎服する

●生理痛・月経不順・更年期の神経症・頭痛・腰痛・痔・のぼせ・鼻血などに１日３～６ｇを煎服する

●ﾍﾟｵﾉｰﾙは抗菌・抗炎症作用、ﾍﾟｵﾆﾌﾛﾘﾝには鎮痛・鎮静作用が有る

【 出　典 】●治寒熱中風．瘈瘲痙．驚癎邪氣．除癥堅瘀血留舍腸胃．安五藏．療癰瘡．（神農本草経中品）

●牡丹皮　苦寒、破血、通経、血分に熱あり、無汗、骨蒸。（薬性歌）

●癥堅瘀血を除き、癰瘡を療し、月経を通じ、撲損を消し、腰痛を治し、煩熱を除く。（古方薬議）

【 備　考 】●牡丹皮はよく血熱を清め血を活す作用がありそれ故瘀血を通じ熱を散じる効能ある。心火甚しく腸胃に積熱のある症に用いる要薬である

●牡丹皮は心に入り、血脉の壅滞を通じる薬で、その効は桂枝と頗る似ている。桂枝は気温で血脉中に寒が滞っている状態を通じ、牡丹皮は気寒で、血脉中に熱を結んでいる状態を通じる。

【 処方例 】●桂枝茯苓丸・大黄牡丹皮湯・八味地黄丸・温経湯・加味逍遥散